

令和 8 年度 文京区立林町小学校 授業改善推進プラン

3 年

教科	指導上の課題の分析	授業改善の具体的な方策	評価（成果と課題）
国語	○漢字の定着に大きな差があり、学期末の漢字まとめテストでは、30%以上の児童が80点未満だった。普段、字を書くときに既習の漢字を使わずに平仮名を使って書く児童がいる。 ○書くことにおいて、文章内で必要な助詞（は、が、を、に等）が抜けて書いている児童が多い。文章を話し言葉のように書き、無意識に助詞を省略している。	○日頃のノート、プリント、作文などを確認し、国語以外の学習でも積極的に漢字を使っている姿を評価する。また、漢字の学習をする際には、止め・はね・はらい等の基本的なポイントを意識して取り組めるように声掛けをする。 ○授業内で、短い文章を書く活動を積極的に設け、文章を書く機会を創出していく。書いた文章を声に出して読ませる等、文章に誤りがないかを確認するようにする。	
社会	○図や資料からどのようなことが分かるのかを読み取ることが課題である。また、その資料をもとに学習問題について考えることが苦手な児童が多い。	○資料を扱う活動を通して、必要な情報を読み取ったり、資料を選んだりすることができるように、社会科的な視点を伝えながら、全体で確認し、資料の読み取りをすすめていく。 ○授業内の学習問題について、考えるべきポイントを明確にする。各資料がどのような意味をもつのかを全体で確認する。そうすることで、全体で共有しながら段階的に学習を進めていき、児童が学習問題に対して、焦点を絞って考えられるようにする。	
理科	○生き物や自然への興味・関心が高く、観察や実験には意欲的に取り組んでいる。しかし、観察では目的に応じた視点を意識したり、正確な実験結果を得るために器具を適切に扱ったりする技能が十分ではない。	○観察・実験の目的や方法を児童と共有し、「なぜその部分を見るのか。」「なぜそのように器具を扱うのか。」を考える場を設定する。また、観察・実験の前後に友達と確認し合う活動や振り返りを取り入れることで、目的に応じた観察の視点や適切な器具の扱い方を身に付けられるようにする。	

	○観察や実験で気付いたことは発言できるものの、結果から考えたことを、根拠を基に説明することに課題が見られる。	○観察や実験の後には、結果から分かることを考え、結果と考察を区別して整理する活動を継続的に取り入れることで、根拠を基に自分の考えを表現する力を育成する。	
体 育	○楽しんで体を動かすことができている。しかし、集合時などは、気持ちの切り替えに時間がかかり、ねらいに沿った楽しさを味わうことができない児童もいる。 ○できることにはすすんで取り組むが、できないことに対しては後ろ向きの児童が多い。 ○友達の良かったところや自分が上手くできたときの体の動かし方などを言語化し、伝え合うことに課題がある。	○児童が自然と夢中になるようなミニゲーム等を取り入れて、集中しやすい環境を整える。ねらいに沿っていない動きは取り上げず、よい動きは広げていく。 ○スモールステップの課題を設定し、「できた。」という喜びを味わいやすくする。そうして、少しずつ自分の動きに自信をもてるようにしていく。 ○授業内で、実技の参考となる動画を活用し、動きの中での良い点を理解させる。そして、児童同士で互いにアドバイスし合い、高め合うことができるような環境づくりをする。	
総合的な学習の時間	○テーマを決めて必要な情報を集め、新聞にまとめる学習を行ったが、まとめ方がまだ身に付いていない児童がいる。 ○ローマ字の学習を先行させ、キーボード入力のタイピング練習を行ったが、まだ定着が不十分である。	○国語で学習したことを活用させ、書き方を統一したり、自分の伝えたいことを盛りこんだりできるように助言する。 ○引き続き、タイピング練習を行う。また、フリック入力をしてしまう児童もいるので、できるだけキーボード入力をするように指導する。	